

学校評価総括表(令和3年度)

奈良県立畷傍高等学校 (定時制課程)

教育目標		日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。			総合評価		
運営方針		知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身ともにたくましく活力ある生徒を育成する。					
令和2年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標			
○新型コロナウイルス感染症による教育活動制限を最小限に抑えることができた。生徒の三修制希望に対応した「0限目授業」、学力向上を図る授業時間延長も軌道にのせることができ、一定の成果を上げることができた。 ○生徒が自身の将来像をイメージすることを喚起し、よりよく生きるための力をはぐくむ。		○規範意識の向上を図る。		○基本的な生活習慣の確立を促す。 ○社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。			
		○自他を尊重する心の育成を図る。		○各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。 ○お互いを支え合い、信頼し合える人間関係づくりを促す。			
		○基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。		○確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。 ○将来を見通した進路希望の実現を支援する。			
		○教職員の資質と指導力の向上を図る。		○授業公開や研修会などを積極的にを行い、自ら指導方法の改善に努める。 ○常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。			
具体的目標		具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
教務部	校務支援システムを積極的に活用し、業務の効率化を図る。	例えば、観点別評価や出席状況の把握などに校務支援システムを活用することで、業務の効率化を図る。	B	B	校務支援システムに関し、出席状況報告書の提出については本年度より利活用している。観点別評価については、来年度より活用予定である。	観点別評価についても校務支援システムの利活用をすすめる。	
	三修制希望生徒の支援を充実させる。	「0限目授業」の履修と学校外での学修成果により単位の修得ができるよう、担当者との連携を図る。	A		本年度に三修制卒業予定生徒は、「0時限授業」を継続して履修できている。		
生徒指導部	安全・安心な学校づくりを目指す。	定期的に校内及び校外の巡視、各所での立哨を行う。警察(スクールサポーター)との連携を密に取り、不審者情報等を共有する。	B	B	巡視や立哨は定期的に行った。警察と定期的に連絡を取り合い、不審者情報を共有したり、非行等の生徒指導につなげることができた。	巡視や立哨の体制づくりを進める。警察以外の関連機関との連携もより一層進める。	
	生徒一人ひとりの悩みや課題に応じた指導を行う。	生徒との面談や外部機関との連携を積極的に行い、実態把握を進める。生徒の情報を関係者で共有し、適切な指導ができるようにする。	B		担任の先生を中心に生徒の面談を密に行い、実態把握を進めることができた。	SCやSSW、その他外部機関とも連携し、生徒が悩みを相談しやすい環境づくりを行う。	
進路指導部	生徒自身が自分の適性を知り、希望の進路に進めるように、進路に関する様々な学習活動を展開することで社会人としての素養を養う。	HR活動や学校行事等で、生徒が自分の適性を知り、それを生かせる具体的な進路について考えさせる。	A	B	本年度は進路講演会を2回(春期・秋期)実施できた点や自分の進路に関心を持つ生徒が増えた点(Cパスポートによる)で評価できる。	生徒の進路への関心を持たせつつ、その情報の収集方法や必要な免許・資格がどのようにすれば取得できるかについても指導し、HR等で自分で調べる機会を設ける必要がある。進路講演会の内容についても、生徒の体験や活動がさらに多く含まれるように、工夫が必要と思われる。進路関係の資料の整理と活用についても、さらに進める必要がある。	
		進学や就職に関する情報の収集と選択について理解させる。	B		教員側の情報が中心だが、生徒自らが進路について調べることができる機会を設ける必要性があり、今後の課題である。		
		対面授業に加え、希望の進路先を調べたり見学することで、社会人として必要なマナーや活躍できる素養を身につけさせる。	B		卒業予定生の面接練習などでマナーを学ばせる機会はあるが、それ以外の生徒についても工夫して身につけさせることが必要である。		
人権教育部	「人権教育の推進についての基本方針」に沿って、教育活動全体を通して学習に取り組みさせる。	お互いを尊重しながら、それぞれの自己実現に向けて努力させる。	B	B	学校行事や日頃の授業の中で、相手の立場も考えながら行動できるようになった。	生活体験発表会や人権作文などを利用して、みんなの前で自分の主張を発表できるようにさせたい。自分だけのことで終わらず、まわりの事にも目を向け、相手に自分の考えを伝えられるように、作文や発表の機会を増やしたい。	
		講演会や映画会を通して様々な意見について考えさせる。	B		全校での人権講演会や、各学年のHRを通して、自分の考えを相手に伝えられるようになった。		
保健体育部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深め、運動の大切さを理解させる。	スポーツ行事を年2回実施し、身体を動かす大切さを理解させる。	A	B	新型コロナウイルス感染防止の対策をしっかり取り、体力テスト・ポウリング大会を実施し、学年を超えて、生徒同士の交流を深めることができた。	目標の設定をより明確にし、より多くの生徒が自ら参加できるよう努める。	
	自らの健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。	体力テストを実施し、各自の運動能力を理解させ、向上させる。	B		B	体力テストを全生徒に実施することができなかったが、授業を通して自分の運動能力の理解・興味・関心を持たせることができた。	健康的な生活習慣の確立を目指し、自らの体調管理と運動、食事や睡眠の重要性を本人が自覚・実践できるように指導していく。
		身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康な生活を行うよう指導する。	B			自分の健康状態を把握できている生徒が多いが、健康的な生活を実践できていない生徒には指導を行った。	
第1学年	基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を持たせる。	保護者と連携を図り、問題行動に繋がらないようにする。	B	B	保護者との連携は図れたが、生徒の欠席数減少にまでは至らなかった。	出席の重要性などをより深く生徒達に話し、自覚させる機会を設ける。HR以外の場面などにおいて個別でも話をしていく。	
	集団生活における規律や協力について理解を深めさせる。	挨拶やマナー等の大切さについて具体的に指導し、生徒の協調性が向上するクラス運営を図る。	B		挨拶をする生徒は増えたが、協調性を十分に育むことができなかった。協調することの重要性を理解できていない生徒が見受けられる。	協調性を向上させることができるような活動を取り入れる。新型コロナウイルスの影響により、密を避けて活動を行ってきたが、今後は感染対策をしっかり取りながらグループ活動等を積極的に活用していく。	
	生徒自身が教員に相談したり、話しやすい環境づくりを目指す。	生徒と教員間のコミュニケーションを十分に図り、生徒の変化をいち早く発見し、適切な対応ができるようにする。	A		放課後などに生徒からコミュニケーションを図ってくるものが多くなった。それが生徒の変化の早期発見に繋がりが、適切な対応が出来た。だが、担任だけではそれらを全て把握する事が難しかった。	各教科の担当者にも協力を仰ぎ、生徒の情報収集に努める。特に、授業内での様子などを重視し、問題行動等を未然に防ぐ。	
第2学年	自らの進路について主体的に考えさせる。	HR活動や個人面談、進路講演会などの機会を通して進路情報を提供し、生徒が進路のことを自分事として捉え、自ら考え行動できるようにさせる。	B	A	進路について自分事として考えられる生徒がいた一方で、具体的な進路が決まっていない生徒もあり、進路に関する情報を提供しても自分事として捉えることができていない生徒もいた。	具体的な進路を考えられない生徒には、個人面談の機会を設けるなど一人一人の生徒に合った進路情報を提供したり、一緒に考えていくよう話し、生徒が真剣に自分の進路と向き合うことができるようにする。	
	基本的な生活習慣の確立や学校生活での規範意識の向上を図る。	遅刻・早退・欠席や問題行動の減少とSHRや授業時の起立・礼や挨拶などの授業態度の指導を行う。	A		遅刻・早退・欠席の減少はあまり見られなかったが、問題行動は減少した。授業態度等は途中、良くない面もあったが繰り返しの指導で改善され集中して授業に臨むことができるようになった。	生徒には、コミュニケーションの重要性を理解させ、生徒が対話する機会を増やす。また、自ら率先して挨拶を行う習慣が身につくような環境を整えていく。	
第3学年	規範意識を高める。	社会活動において必要な生活態度やマナー、責任ある言動を身につけさせる。	B	B	ホームルームや授業の時間に繰り返し指導することで、少しずつ態度に変化が見られる生徒が増えてきている。	コミュニケーション能力の育成を中心に指導を繰り返し、他者理解を深めさせることで、態度に変化が見られる生徒を増やしたい。	
	確かな学力の定着を図る。	学び方を提案、実践できる環境作りをする。	B		ホームルーム等を利用して、基礎知識の定着を図る課題を作成、実施している。結果を受けた指導を徹底できている。	結果を受けて授業の中で生徒自身が考える時間を設け、その後再度実施することで知識の定着を図りたい。	
	進路について、具体的に考えさせる。	進路希望を元に、具体的な情報を提供する。	B		今年度卒業予定生徒は進路を決定し、受験した。4年修業の生徒は具体的な進路を決定できていない者もいる。	就職希望生徒には受験企業、進学希望生徒には受験校の情報を自身で収集する時間をホームルーム等で設けたい。	
第4学年	最高学年として心残りのない、充実した学びの年にさせる。	様々な活動の中で社会人・最上級生らしい礼儀作法を磨かせる。	B	B	生徒の社会性を伸ばすことができたが、個人差は大きかった。	進路指導や学習指導などと関連づけながら生活指導を行なう。	
		少人数制を活かし、個々に応じた進路指導などを行う。	A		個々に応じた進路指導を実施できたが、内定の得られていない生徒もいる。	関係機関などといっそう連携して、卒業後の進路の道筋をつける。	

	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
国語科	漢字や語句といった基本的な知識を定着させる。	音読や小テストなどの演習を多く実施する。副教材を用いて意欲を高める。	A	B 演習に熱心に取り組む生徒が多かった。理解を深めたり応用力を伸ばすことは課題である。	演習において、読解や応用を重点的に行なう。	
	表現することを通して、学習内容の定着と応用力を育成する。	作文指導をきめ細かく行う。発表や発言の機会を設ける。	B		作文指導の機会は増えたが、やや形式的になったのが課題である。	
地理歴史科	生徒にとって身近なことから、興味や関心を持たせる。	生徒の身近な生活圏の歴史や話題のニュースなどを授業に取り入れるようにする。	B	B 生徒の生活圏にある歴史的な遺産など適宜、紹介することはできた。ただ、それによって生徒に興味・関心を持たせるまでには至らなかった。 授業プリントにも自分の考えを記述する欄を設けたり、歴史的な事実を自分のことばで書かせる活動などを行い、歴史的思考力を身に付けさせることができるなど一定の成果があった。 パワーポイントを活用した授業で史資料を効果的に提示することで、史資料を正確に読み取ったり、各時代の特徴を把握させることができた。	ただ単に身近な歴史を紹介するだけに留まらず、学習の内容ともより絡めた形で生徒の学習内容に沿って提示することで歴史への興味・関心を持たせるようにする。	
	歴史認識を基礎に、歴史的な思考力を身に付けさせる。	正確に歴史的な事実などを認識し、自分のことばで文章化できることを目指す。高卒認定試験の受験対策も併せて実施する。	B		複数の資料を提示し、資料を見比べたり関連付けて考察するような学習機会を増やすことで、自ら歴史を探究していく力を身に付けさせる。	
	各時代や国々の特徴を史資料などを通して認識させる。	当時の人々の生活の様子や文化的特色を史資料などから考察し、各時代や各国の特徴を把握させる。	A		今後視聴覚に訴える史資料を提示し、歴史的な事柄のイメージを行いやすいような工夫をすることで、その時代や背景を正確に把握させる。	
公民科	時事問題を適時取り入れ、生徒が社会の出来事に対して、興味・関心を持つようにさせる。	最新のニュースや生徒の興味・関心に沿ったニュースなどを通して、世界や日本の社会や出来事に興味・関心を持たせる。	B	B 授業時に毎回、世界や日本の社会や出来事を紹介したところ生徒からもニュースの内容など積極的に情報を共有しようとする姿勢が見られた。 基礎知識の定着を図るために前時の復習などを授業の冒頭で行い、一定の成果があった。授業プリントに関しては、構造が複雑になり、かえって生徒が混乱する時もあった。 生徒の意見を板書するなど意見交換の時間は取ることができたが、討論などの時間を取ることはできなかった。	生徒にニュースを紹介するだけでなく、授業の最初に生徒が興味関心を持ったニュースを発表させ、よりニュースに興味・関心を持たせるようにする。	
	授業時の冒頭に前時の復習や教材を精選することで、基礎的知識の習得させる。	都道府県のプリントの活用や授業プリントも内容を精選し、整理しやすいものを作成する。また、授業の最初に復習の時間を設けるなど基礎知識が定着するような取り組みを行う。	B		これかからも毎時間の復習を授業の導入に行い、基礎知識の定着を図る。授業プリントに関しては、必要な情報を精査し、プリントの見やすさにも心がけて生徒の学習意欲が高められるような工夫を行う。	
	現代社会の問題や課題を、主体的に学ぶ視点を養う。	授業時間に討論やペアワークなどの意見交換の時間を設け、社会の諸問題に自ら対応する力を身につける。	B		ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、ファシリテーターとして議論が滞りなく活発に行えるような工夫を行う。	
数学科	数学的な知識、技能の習得を図る。	基礎的な内容から始め、知識・技能を習得させる。	A	B 各分野において基本部分の内容に時間をかけることで知識・技能が定着してきている生徒が多い。 例、例題を直前に説明し、すぐに問や練習問題を指示することで自身で問題に取り組もうとする生徒が増えてきている。	基本部分をゆっくり時間をかけることで理解を促し、発展問題にも取り組もうとする生徒を増やしたい。課題等を指示するときも難問を明示することで理解できているかを自身で判断できるようにしていきたい。	
		問題演習の時間を多くして、自身で問題を解く習慣を身につけさせる。	B			
理科	基礎・基本的な事項の定着を図る。	プリント等で復習を重点的に行い、定期的にノート等を点検する機会を設ける。	B	B 今年度はプリント中心の学習に切り替え、単元ごとに復習を取り入れた。学期の終わりにプリントの点検を行い、生徒の意欲、理解度を確認した。 学習内容の理解を助ける動画やパワーポイントを各学年で適宜使用した。興味を持って取り組む生徒が多くなったと感じる。	生徒の理解度には差があると感じるため、生徒の理解度に応じた復習の方法を考えていく必要がある。	概ね良好
	理科への興味関心の向上を図る。	視聴覚教材や演示実験等を行い、生徒の興味を引き出す授業を行う。	B		動画の視聴時間が増えると集中力を切らしてしまう生徒が出てくるので、視聴覚教材を使うタイミングをより考えていく必要がある。	
保健体育科	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせ、集団の一員ということを自覚させる。	B	B 集合・整列・挨拶等度習慣化させることができたが、迅速に行動させることは出来なかった。集団の一員としての行動を取れるようになっていきたい。 ルールを守り、安全に運動させること及び、楽しさを感じさせることができた。生涯スポーツに繋げるために、応用力等を身に付けさせていきたい。	けじめをつけることの大切さ等を理解させ、集団行動に必要なことを身につけさせられるよう努める。	
	運動をすることの楽しさ、喜びを味わわせるとともに、スモールステップで出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、運動の楽しさを教え、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。	B		スモールステップで成功例をたくさん与え、生徒自らが積極性を身につけ、生涯スポーツの実践に繋げていけるように授業を進める。	
芸術科 (書道科)	書の基礎的な表現力を養う。	古典を手本にして書の基礎的な表現力を身につけさせる。	B	B ワークシートを2ステップにすることで、1つ1つの古典について深く学べるように工夫した。反面、創作に時間があてられなかった。 生徒一人ひとりが「ことば」と出会い、その「ことば」をどのように表現すれば良いか考える授業が実践できた。学びを振り返ったり、つなげたりする時間が設けられなかった。	古典で学んだ表現力が発揮できるよう、創作の時間を臨書と同時並行で進められるように採り入れる。	
	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を通して表現力を養う。	B		B 先人たちの漢字仮名交じりの書を鑑賞できる機会を設けることで、より生徒一人ひとりの表現の幅が広がるよう努める。また、学期毎に学びを振り返る時間を取る。	
		基本的な表現力を定着させる。	B			
英語科	基礎・基本を着実に身につけさせる。	工夫してノートをつくる態度を身につけさせて理解の深化を図る。	B	B きれいで分かりやすいノートを自分で工夫してまとめられるようになった。 毎時間の小テストは自ら積極的に取り組めるようになった。	生徒が自分で予習をした上で毎時間の授業を受けられるようにさせる。	
	小目標の達成を重ねようとする積極的な態度を育成する。	小テストを活用して学習の定着を図り、成績の向上を図る。	B		短いQ&Aをたくさん用意して、生徒の発表の機会を増やす。	
家庭科	生活に関する基礎的・基本的知識と技能を習得させ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任を持ち、主体的に社会に貢献できる資質・能力を育成する。	食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消費者としての実践力を身につけさせる。	B	B 基礎・基本の知識、技能を身につけ、適切な価値判断と意志決定する力を身に付けることができるよう取り組んだ。 食生活、子育て支援、防災の学習を通して、多くの人々と関わり合うことの大切さを考えさせた。また、持続可能な社会に向けて生活の見直しを促した。	自立に向けて実習やグループワークを通し、コミュニケーション能力を身につけ、現在及びこれからの生活を実際につくっていく力を養うように努めたい。	
		特に、主体的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源、環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。	B			
情報科	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。	情報機器に対して自己効力感を形成できるように、きめ細かな指導を行う。	B	B 情報機器を十分に利活用させることはできたが、自ら主体的に情報を吟味し、取り扱うには、まだ苦手とする生徒がいる。 著作権の保護など、情報モラルについて理解できているが、進歩し続ける情報社会で生きていくための対応力には課題がある。	新学習指導要領の実施によって、来年度以降は「情報Ⅰ」を履修させることとなる。現行科目よりも情報をより科学的に捉え、コンピュータを活用できるように授業の内容や方法について改善していきたい。	
		著作権等の保護など、情報社会で生きていくための情報モラルを身につけさせる。	B			
商業科	社会やビジネス活動に必要なマナー・知識・技能を習得させ、社会人として必要な素養の育成を目指す。	商業の各科目の学習内容で、基礎・基本の理解を重視し、実習を通して、実践的な能力を身につけさせる。	A	A 各科目で、生徒の実態に合った対面授業・実習が概ねできた。就職希望の生徒が多い点からパソコン実習の内容についても、就職後に活用できる内容にしている。 電卓を利用したビジネス計算や通信文書の作成、マーケティング活動等でその能力が伸ばせるように授業の工夫をしている。	特にコミュニケーション能力については、各生徒の差が大きいため、発表やグループ学習等を授業の中でさらに取り入れていく必要がある。またその評価についても再考する点があり、今後の課題である。 今後の観点別評価の方法についても、授業展開と合わせて工夫していかねばならないと考えている。	
		ビジネス活動を計数的にとらえたり、望ましいコミュニケーション能力が育成されるように授業等を工夫する。	A			